「小さな拠点づくり」とは

島根県では、少子化や高齢化の影響で、県全体で人口が年間約5千人減り続けています。特に県土の約9割を占める中山間地域では、2010年からの20年間で人口の約1／4が減少すると予測されています。

人口減少が進む中でも、中山間地域で安心して暮らし続けるために、県と市町村は連携して「小さな拠点づくり」を進めています。

地域の〝未来〟をみんなで話し合い、そして実行する。
それが「小さな拠点づくり」です。

始まってます！

お住まいの地域でこのような課題はありませんか

- 唯一の商店が廃業するらしいが買い物どうしよう
- 運転に自信がなくなったので通院が心配だ
- 草刈りも参加者が減って大変だ
- イノシシなどが大切な畑を荒らして困っている

「小さな拠点づくり」の進め方

STEP1 まずは地域の現状を知りましょう

STEP2 地域の課題を住民の皆さんで話し合い、認識し、課題解決の取り組みを計画としてまとめましょう

STEP3 役割分担を決め、出来ることから実践活動を始めましょう

※県にご連絡いただきますと「小さな拠点づくり」の説明に伺います。お気軽にお問い合わせください。

地域の取り組み紹介（第2回）

地域産業の振興

益田市真砂（まさご）地区

「とにかくまずはやってみようよ！」

益田市東部に位置する真砂地区は、高齢化率50％超の典型的な中山間地域。住民出資で設立された食品加工の有限会社「真砂」と公民館、小中学校が連携。2011年度から「農業」を軸にし、「とにかくまずはやってみようよ！やってみなくちゃわからないよ！」を合言葉に、地域おこしをスタートさせました。

公民館が取りまとめ役となり、地域住民が生産した野菜を市内の保育所に給食食材として提供するシステムを構築。有限会社「真砂」は、地元産大豆を使った豆腐のブランド化を進めるとともに、体験学習やコラボ商品の開発など小中学生の食育支援に力を注いでいます。こうした、地域をあげて農業に取り組むことで地域経済を循環させ、住民をつないでいく活動が評価され、2014年度に「過疎地域自立活性化優良事例表彰」の総務大臣賞に選ばれました。

野菜生産者の三谷君子さん（90）は「出荷すると収入になるし、何より子どもに食べてもらえるのがうれしい」と笑顔。有限会社「真砂」の岩井賢朗社長（51）は「関係者がそれぞれの役割を果たすことで、地域力が向上している」と誇らしそうです。

【真砂地区のデータ】

人口 388人
高齢化率 53.9％（2017年4月末現在）

※2047年の推計
人口 247人　高齢化率 42.5％

2012年から2017年の年代別の人口変動を基にした推計（しまねの郷づくり応援サイトより）

地元小学生が野菜出荷体験

「おすそわけ」から広がる地域の環（わ）

大庭（おおば） 完（ゆたか） さん

（益田市 真砂公民館長
地域自治組織 ときめきの里 真砂 会長）

益田市戸田町出身。高校を卒業し、東京都内で勤務した後、妻の故郷である同市の真砂地区にUターン。建設会社勤務を経て、2007年4月から真砂公民館長に就任し、地域の旗振り役となる。73歳。

生産者と子どもたちが食事会で交流

活動のきっかけは

真砂公民館長として地域活動にかかわってきましたが、イベントの内容や来館者の固定化が課題となっており、もっと多くの人が集う場を作りたいと思っていました。キーワードは地域で昔から行われている「農業」。これを「地産地消」や「食育」につなげ、地域を元気にしたいと考えました。

どんな活動をしてきましたか

目を付けたのは家庭菜園です。各家庭で食べきれない野菜は、近所に配るか、畑に捨てられており、この野菜を地域づくりに生かせないかと考えました。

折良く、安心・安全な野菜を求めていた益田市保育研究会と連携することができ、住民が育てた野菜を給食に使ってもらう仕組みが出来ました。生産者には「形や大きさは問わずキロ単価で出荷」「年間統一価格」を提示し、「おすそわけの延長のつもりで気負わず取り組んで」と呼び掛けました。保育所の調理担当者と生産者が、出荷時期や分量の見通し、献立の内容をすり合わせる「食材会議」を毎月開いて、需給をマッチング。最初は4、5戸だった生産者は約50戸まで広がり、年間280万円の売り上げ（2017年度）になっています。今では真砂保育園など市内4保育所の園児、職員計390人分の野菜を提供しており、JR西日本の豪華寝台列車「瑞風」の食材として採用されました。

どうして活動を広げる事が出来たのですか

子どもたちの存在が大きいです。野菜を供給している真砂保育園の園児は、日々、住民の家を訪ねて会話をしたり、庭先で昼食を食べたりしています。「元気がもらえる」と高齢者の大きな楽しみになっていますし、子育て環境に魅力を感じて移住する家族も増えています。このほか、地元産大豆で豆腐を生産する有限会社「真砂」では、地元の小中学生のアイデアを取り入れたハンバーガーや豆腐のから揚げなどを商品化しました。「農業」や「食」を通じて、地域がつながることで、活動が広がってきたと感じています。

どんな未来を描いていますか

こうした活動を受け、地域自治組織「ときめきの里 真砂」が発足しました。新たに厨房付きの交流拠点を開設し、不定期で住民主体による食のイベントを開催しているほか、益田市内への買い物バスの試験運行も行なっています。いずれは法人化し、収益活動の受け皿とする計画です。地域資源をうまく活用すれば、地域外から収益を得て地域内で循環させ、教育や子育て環境の充実を図ることができます。このことを私たちは実践的に学びました。今後も多くの住民を巻き込みながら、取り組みを進めていきます。

【これまでにいただいたご意見】

「高齢者通いの場」が立ち上がり、ボランティアとして月1回利用者さんに寄り添っています。幅広い年代の方を呼び込み活動できると良いですが実際には若い方がいないのが現実です。自分のできることを一つでもコツコツ続けていこうと思います。（50代女性）

「小さな拠点づくり」のお問い合わせはこちら

【東部地区】島根県庁しまね暮らし推進課　TEL：0852-22-5065
【西部地区】西部県民センター地域振興課　TEL：0855-29-5514
【隠岐地区】隠岐支庁県民局地域振興課　TEL：08512-2-9611